

2022 年度・山梨学院大学 ライティング・サポートデスクにおける取り組み

竹内はるか

1. はじめに

山梨学院大学におけるライティング・サポートデスクは、本年度から新たな体制がスタートした。ライティング・サポートデスクにほぼ常駐する教員を1名設定し、それに伴い開室日時を大幅に増加させるなど、ライティング・サポートデスクの拡充が進められた。

ライティング・サポートデスクでは、文章表現に関する日々の相談への対応や文章表現の相談に乗る学生サポーターの研修、全学向けのワークショップを開催している。本稿では特に、ライティング・サポートデスクに相談に来た学生に焦点をあてる。そのうえで、学生の利用日の傾向や、対応されたことに対する評価など、新体制となったライティング・サポートデスクの1年めの実態を報告し、次年度により強化すべき点や、改善する課題などを明らかにする。

2. 山梨学院大学ライティング・サポートデスクについて

2.1 ライティング・サポートデスクの変遷

ライティング・サポートデスクは、授業時間外に様々な種類の文章表現に関するアドバイスを受けられる場所として2019年度から開室している。しかし、2019～2021年度は、コロナ禍であることもあり、開室時間が限られていた。また、学生によるサポートも、2022年度以前は新型コロナウイルスの影響で、対面では

なくオンラインでの対応が主となっていた。

2019年度 ・週3日（火～木）の昼休みに開室
*教員1名によるサポート
2020年度 ・週3日（火～木）の昼休みに開室
*教員1名によるサポート
2021年度 ・週4日（月～木）の昼休みに開室
*教員4名によるサポート
2022年度 ・週5日、2～4限・昼休みに開室
*教員4名（うち1名は常駐）、
学生サポーター5名によるサポート

ライティング・サポートデスクにはサポーター学生が在室している時間帯を設けている。春日ほか（2019）などで示されているように、教員ではない立場にいるサポーターが授業の内外で授業を欠席した学生やレポート執筆に困難さを感じる学生の対応を行うメリットは多い。本学におけるライティング・サポートデスクのサポーターは、決められた曜日時限に在室（一人週2コマ）し、質問にきた学生にアドバイスをを行う。本年度のサポーターは5名で、いずれも「言語技術」、もしくは「アクティブ・ライティング」の授業を受講した経験のある2年生の学生である。

2.2 ライティング・サポートデスクにおける対応内容

ライティング・サポートデスクでは、文章の作成に関わることであれば特に細かい指定を設けずに対応を行った。実際これまでに来室した学生の具体的な来室目的を確認すると「言語技術」の授業に関すること、その他授業で課題となったレポート、自己PR文、奨学金応募のための自己推薦書、公務員試験の小論文の作成相談等となっている。

また、初年次学生が履修する「言語技術」の教員がライティング・サポートデスクに在室し、学生対応にあたる点が本デスクの大きな特徴の一つである。そのため、「ライティング」の知識を習得するための授業を欠席してしまった場合に質問に来たり、授業での内容理解に不安がある学生が質問に来たり、安心感を持って利用することができる場となっている。実際に本年度は、「言語技術」で履修した内容理解の補強のためにライティング・サポートデスクを利用する学生が多かった。

今年度はシステムティックな仕組みを作る準備段階であったため、予約システム、対応時間の制限などは特に設けなかった。

2.3 ライティング・サポートデスクの方針

本学のライティング・サポートデスクでも、佐渡島ほか編（2013）、関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編（2019）などで示されているように、様々なライティング支援の場の方針とされている「書き手が主体となる支援を行う」点を重視した。そのため、対応にあたる教員が、対話を重視しつつ、書き手の意図を尊重するような支援を行うよう意識したほか、サポーターには意図をくみ取って話を進めることが難しい場合でも「一緒に考える」姿勢を大切するよう指導した。

3. 来室学生について

2022年度の来室者数は延べ602名（前期418名、後期184名）で、2021年度の来室者数が延べ279名（前期184名、後期95名）であったことと比較しても非常に多くの学生に活用されていることがわかる。また、1日の利用者数をみても、利用者0名の日はそれほど多くない。このことから教員が常に相談にのる体制（常駐1名）、サポーターが支援する体制が整いつつあるなどにより、これまでより利用しやすい環境になっていることがうかがえる。このように、利用者数の傾向からライティング・サポートデスクの運営日数・時間の拡充、環境の整備は利用者のニーズとあったものとなっていたと考えられる。

3.1 前期の来室者数と傾向

2022年度前期の利用学生の内訳は以下のとおりである。表中の「第n回」は、その週に授業のn回目が行われていることを示したものである。前期の開室期間は第1回目の授業がある4月11日から、定期試験期間の終わる8月5日までで、合計来室者数は延べ418名であった。

4月	計76名（開室日数14日）
5月	計38名（開室日数17日）
6月	計120名（開室日数22日）
7月	計177名（開室日数21日）
8月	計7名（開室日数5日）

以下の表1～5を見るとわかるとおり、4月の第1回授業が行われる週、7月に入ってから来室者数が多くなっている。4月の初週の来室者が多い理由は、入学したばかりで大学のLMSに慣れていない学生が「言語技術」の授業を中心とした授業課題提出方法の質問のために、本デスクを利用したからである。また、7月の来室者が多くなっているのは、授業期間の

終了に伴い、課題としてレポート提出が課される授業が多くなっているためであると考えられる。

来室者数については、期末課題として調査報

告型レポートが課される「言語技術Ⅰ」の授業内容とも深く関係している。「言語技術Ⅰ」では第7回授業（6月1日～）からレポートテーマを考えたり、資料の扱い方を学んだり、アウ

表1 2022年4月来室者数

		第1回	第2回	第3回			
		1日～	4日～	11日～	18日～	25日～	計
月	授業開始前			2	3	3	8
火				18	0	3	21
水				13	12	2	27
木				8	1	1	10
金				7	3	閉室	10
計				48	19	9	76

表2 2022年5月来室者数

		第4回	第5回	第6回	第7回			
		2日～	9日～	16日～	23日～	30日～	計	
月	GW			3	6	0	3	12
火				2	0	1	3	6
水				2	7	1		10
木				0	5	0		5
金				3	2	0		5
計				10	20	2	6	38

表3 2022年6月来室者数

		第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	
		1日～	6日～	13日～	20日～	27日～	計
月			0	4	5	1	10
火			0	2	5	1	8
水		16	5	13	5	5	44
木		7	3	9	9	14	42
金		0	6	3	7		16
計		3	214	1	331	21	120

表4 2022年7月来室者数

		第11回	第12回	第13回	第14回	第15回		
		1日～	4日～	11日～	18日～	25日～	計	
月			6	10	6	9	31	
火			1	13	7	7	28	
水				11	14	20	2	47
木				15	8	11	1	35
金			4	13	3	16	0*	36
計		4	56	38	60	19	177	

表5 2022年8月来室者数

		定期試験 期間					
		1日～	8日～	15日～	22日～	29日～	計
月		1	学生 夏休み				1
火		1					1
水		2					2
木		2					2
金		1					1
計		7					7

トラインを作成するというレポート作成準備が本格的に始まっているが、来室者数も6月から徐々に増加している。

利用目的については前期の途中である7月4

日から詳細を尋ねているが、7月4日～8月5日の来室者180名のうち、「言語技術I」で作成している調査報告型レポートに関する相談が131名（具体的にはアウトラインについての相

表6 2022年9月来室者数

					第1回	
					26日～	計
月	1日～	5日～	12日～	19日～		
月	学生 夏休み				0	0
火					1	1
水					1	1
木					3	3
金					1	1
計					6	6

表7 2022年10月来室者数

						第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	
						3日～	10日～	17日～	24日～	31日	計
月											
月						1	0	0	4	0	5
火						2	0	2	2	/	6
水						7	1	5	4		17
木						2	3	3	3		11
金						1	2	3	2		8
計						13	6	13	15		0

表8 2022年11月来室者数

							第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	
							1日～	7日～	14日～	21日～	28日～	計
月												
月							/	2	0	0	0	2
火							0	0	3	3	0	6
水							2	3	4	9	4	22
木							2	2	4	5	/	13
金							3	6	1	5		15
計							7	13	12	22	4	58

表9 2022年12月来室者数

							第10回	第11回	第12回	第13回		
							1日～	5日～	12日～	19日～	26日～	計
月												
月							/	0	2	閉室	学生 冬休み	2
火								1	1	0		2
水								2	0	3		5
木							3	3	3	4		13
金							3	5	閉室	閉室		8
計							6	11	6	7	30	

表10 2023年1月来室者数

							第14回	第14・ 15回	第15回				
							2日～	9日～	16日～	23日～	30日～	計	
月													
月								学生	4	2	1	7	
火								冬休み	5	4	1	10	
水								学生 冬休み	0	2	5	/	7
木									1	6	3		10
金									2	6	1	9	
計									3	23	15	2	43

談が最も多い)、欠席した回の授業内容についての質問が17名、「言語技術Ⅰ」の履修者以外による文章に関する相談が32名であった。

前期来室者の月毎や曜日毎の傾向を見ると①各月の中では第3・4週（月の中旬）の来室者が多い、②来室者数が増加した6月を境に、来室曜日の傾向に違いがみられるという特徴がある。第7回以前の授業期間は主に月～水曜日の来室者が多かったのに対し、第8回以降の授業期間は主に水～金曜日の利用者が多いという特徴が確認できる。

3.2 後期の来室者数と傾向

2022年度後期の利用学生の内訳は以下のとおりである。後期の開室期間は第1回目の授業がある9月26日から、定期試験期間の終わる1月31日までで、合計来室者数は延べ184名であった。

- 9月：計6名（開室日数5日）
- 10月：計47名（開室日数21日）
- 11月：計58名（開室日数22日）
- 12月：計30名（開室日数15日）
- 1月：計43名（開室日数15日）

月毎に比較すると、学期末である1月来室者数は開室日数に対して多くなっている。これは前期同様授業期間の終了に伴い、課題としてレポート提出が課される授業が多くなっているためであると考えられる。

前期と比べると「言語技術Ⅱ」以外の授業のレポートや、レポート以外の文章に関する相談の割合が増加しており、後期の来室者184名のうち「言語技術Ⅱ」の授業関連の質問は102名、そのほかの授業レポートや、レポート以外の文章に関する相談が82名となっている。

後期来室者の曜日別の傾向をみると、前期の後半の傾向と同様に、主に水～金曜日の利用者が多いという特徴が確認できる。

4. 利用者によるライティング・サポートデスクの評価

上記のとおり、ライティング・サポートデスクへはほぼ毎日何かの相談が持ち込まれている。本章では、そのようなライティング・サポートデスクを利用したことのある1年生を対象としたアンケートの自由記述の一部を報告する。

アンケート対象：言語技術Ⅰの受講者 493名

実施日：2022年7月25日～8月1日

質問：ライティングサポートデスクを利用した人に質問します。

利用してよかった点・改善してほしい点を書いてください。

結果をみると、ライティング・サポートデスクを利用することが多くの学生にとって有意義であると捉えられていることがわかる。特に、ライティング・サポートデスクが目指した「一緒に考える」「書き手主体となる支援」はおおむねうまくいっていると考えられる。以下、アンケート結果を大まかに分類して示す（本文は原文ママ）。

(1) よかった点

①支援の仕方について

- ・先輩の方もいて、先生と2人で教えていただきました。とても、丁寧にこれはいいんじゃないとかこれは違うよねとか同じ立場のような感じでレポートについて話し合ってくれた。
- ・個人の意見に寄り添ってくれた
- ・自分では解決できないようなことを親切丁寧に教えてくれたりまた自分の成長のために全部を教えるのではなくヒントをくれたりして

とてもありがたかったです

- ・個人に合わせて教えてくれる

②サポーターの対応について

- ・先生がいなくても SA さんが対応してくださったところがよかった
- ・学生のアシスタントの方が親切にとっても分かりやすく説明して下さった

③自分自身の成長について

- ・何をすればいいかが明確になった。
- ・一人ではわからないことも、先生のアドバイスによって解決出来た。
- ・利用したことにより問いを変え、自分でも書きやすいようなレポートになり無事に提出することができた。
- ・分からない点をはっきりするきっかけができる。また、考える力がみにつけられる。
- ・教えてもらう人が近くにいる環境なので、分からないことを溜め込まなくて済む点。

④ライティング・サポートデスクの環境について

- ・とても親切に接してくれた
- ・先生に気軽に質問できて良かった。
- ・集中できる空間で作業に取り組めた

(2) 改善してほしい点

- ・混んでいて少し添削してもらう時に時間がかったため予約制にして欲しい。
- ・改善してほしい点は、もう少し部屋が広いと作業しやすいと思いました。

改善してほしい点については記述が少なく、上記の2点のみであった。予約システムの整備、空間の使い方については早急に現状に改善

を加えていきたいと考える。

5. まとめ

本稿で示した来室者数や利用者によるアンケートからライティング・サポートデスクの

①運営日数・時間

②対応方針の書き手が主体となる支援

は、利用者の成長を促すものとなっており、学生のニーズとあっていることを確認することができた。

ただし、今後の課題として、ライティング・サポートデスクを運営するうえでベースとなるシステムの整理が必要であることも明らかとなった。利用者だけでなく、サポートする学生からも意見が聞かれた

③予約システムの決定

④相談スペースのレイアウト

については早急に整備を進めていきたいと考える。

参考文献

春日美穂・近藤裕子・由井恭子・吉田俊弘
(2019)「文章表現教育における TA (ティーチング・アシスタント) の養成と活用—大正大学共通科目「学びの基礎技法 B」の実践をとおして—」『大正大学教育開発推進センター年報』第3号 pp.8-11

関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編 (2019)『大学におけるライティング支援—どのように「書く力」を伸ばすか』東信堂

佐渡島紗織・太田裕子編 (2013)『文章チュータリングの理念と実践—早稲田大学ライティング・センターでの取り組み』ひつじ書房